

講武秘書

長樂館印
保
明治
年
月
冊
六
二
九
號

第十一門
製
第一
二〇
號
調
昭和
年
月
日
品
目

399
1
2



鑑言所

此書と赤心秘書乃顔本守國
伊藤直之進府京寛政のち免
上安東(守)守國強兵(守)事
演(守)物(守)終(守)は(守)夜(守)に(守)成(守)家(守)法
義(守)中(守)に(守)所(守)に(守)控(守)写(守)一(守)赤(守)心(守)秘(守)書(守)に
摺(守)講(守)義(守)秘(守)書(守)を(守)表(守)題(守)し(守)滿(守)日(守)誌
不(守)の(守)實(守)原(守)本(守)納(守)心

嘉永六年癸丑二月

A 899

A39
X
2

高知県文化会館
昭 33.7.30 和
39579

五拾五銃炮、後出馬、西至極、事、成程子、操、
掃、何程、強款、少、打、先、下、事、存、
百挺、一隊、仕、十隊、程、後、史、引、續、大、芥、
之、働、者、多、人、程、仕、五、大、概、打、破、下、中、
其、月、の、魚、の、出、勤、考、好、好、
者、と、打、交、或、大、芥、五、人、古、道、具、打、少、人、
是、長、一、五、程、と、用、ひ、
下、早、免、法、之、能、子、一、路、
道、真

予ももむの如くもむる人年々一人の代りて逝く
聖年ももむの仕りて好く年々もむ仕舞の如く
予もも十年程の内に多岐路に出れり仕舞の如く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く

一 暇取上りて一休も初五文を初りて此書も如く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く

此書も初五文を初りて此書も如く

十月十三日

伊豆車道

秋前より一休に當りて年々一人の代りて逝く
聖年ももむの仕りて好く年々もむ仕舞の如く
予もも十年程の内に多岐路に出れり仕舞の如く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く
仕舞の如くもむる人年々一人の代りて逝く

下札

○

尾頭位、權帥と云ふこと、事、向と為す、其

日

或は志す、と、一切、如く、突如、

□

難教、教、之、出、國、如、る、を、中、に、

日

亦、被、り、目、前、を、其、名、を、

△

在、部、に、皇、使、曰、く、百、中、其、角、

日

日光、所、宮、に、を、納、め、其、右、格、別、

△

五、十、五、と、法、勉、百、百、十、十、

△

所、宮、に、後、敷、り、其、右、格、別、

△

其、名、を、其、名、を、其、名、を、

以、一、信、と、し、其、由、況、し、り、の、先、才、一、高、く、

才、二、也、と、皮、以、仕、り、其、由、況、し、り、の、先、才、一、高、く、

才、三、と、云、言、語、字、の、其、由、況、し、り、の、先、才、一、高、く、

才、四、と、云、言、語、字、の、其、由、況、し、り、の、先、才、一、高、く、

才、五、と、云、言、語、字、の、其、由、況、し、り、の、先、才、一、高、く、

才、六、と、云、言、語、字、の、其、由、況、し、り、の、先、才、一、高、く、

才、七、と、云、言、語、字、の、其、由、況、し、り、の、先、才、一、高、く、

先、皇、言、事、入、内、院、の、車、備、り、事、業、進、り、其、由、況、し、り、

以、其、言、事、入、内、院、の、車、備、り、事、業、進、り、其、由、況、し、り、

其、由、況、し、り、の、先、才、一、高、く、

方は向きく少くは是方古成の方宜き處
 一方の難き玉風におる方方故に車備ふは亦有
 り人馬と隊列と皆在仕る事三列尾列
 西度は車易容座の地理は是故に車戰
 あり和の便利あり方々も是なる玉凡の地理
 多く方方々々車といふ物を以て出陣
 武備の根柢は是に及ぶは當の地も或は謙信流
 或は江軍も亦これに依る其中心傳は世に傳へ
 事なる故に然る事なるを内事死る事なる如
 亦は軍學の法出來はりは乃後其化して利を死相

亦は信相の半を爲すは是の如くは實に用ひ
 とも是を見んは如くは是の如くは甲別流を爲すは
 事なる故に然る事なるを内事死る事なる如
 軍學千らくと取高年一拾或は事おはらる凡
 四指年おひは仕る如くは一の万に合志するは事
 少くも是なるは自に之を操りしあはる念志仕る兵書の
 極意の場奇術も園子中におはる明は而も是に
 少くも是なるは是なるは是なるは是なるは是なるは是
 是なるは是なるは是なるは是なるは是なるは是なるは是
 是なるは是なるは是なるは是なるは是なるは是なるは是
 是なるは是なるは是なるは是なるは是なるは是なるは是

了りし余り大車に存りし將士を安堵に止せ
謀ハ機密とせし由は此の如く申す所也
存りし由は此の中上ノ兵士に車ハ之概由是地ノ兵
礼ノ車路も此の如く申す所也一系七十人
然りし由は此の如く申す所也一系七十人
細に此の如く申す所也一系七十人
陣出りし由は此の如く申す所也一系七十人
能恒き車をとりし由は此の如く申す所也一系七十人
此の如く申す所也一系七十人
老十二恒車ノ寸法也

恒車ノ本名山ニ建下ノ常ノ大弁也
伊ノ兵士を聚て隊をたし多兵志士を聚て隊を
たし恒車ノ紐居りし由は此の如く申す所也
たし恒車ノ紐居りし由は此の如く申す所也
此の如く申す所也一系七十人
恒車ノ紐居りし由は此の如く申す所也
たし恒車ノ紐居りし由は此の如く申す所也
たし恒車ノ紐居りし由は此の如く申す所也
七百年八百年ノ恒車也
是也恒車ノ紐居りし由は此の如く申す所也

二一〇〇年或十三代と云ふは百年を越るゝ
振の翌振起り百七十年同日如るに上移り大元
成り小隊も勿偏らたが如く大元沙路也天下百
歳と云ふは遠くはもとをいふに命教の振なり
のり何れに文する人をも百とせしむるに
大概七十年と云ふも法元の如く運り合
振りのり天下の百と目出たは年を計り
如く、盗賊も多しお如農業者も少くは
何れも如く、小隊年々少く、其兆あり
元世経怖れあり、一年に、百年の百姓の一人を
一破

破より又安し何れも言へる如く却る力
変を振り如く、お如は、平常元法世或百年
乃の如く、他果り元を、のり、お如く、
お如く、是も、お如く、大坂法隆寺は三年
を、お如く、は、のり、お如く、
し、お如く、は、お如く、
事、お如く、は、お如く、
お如く、は、お如く、
お如く、は、お如く、
者、お如く、は、お如く、

事より少くも其も世に是を以て其の意に急を
有し其の時におきて其の法に事にして其の
死の事より軍事より其の事にして其の
時より其の事より其の事にして其の
道は其の事より其の事にして其の

前より其の事より其の事にして其の
打撃し射し其の法に事にして其の
以後は其の事より其の事にして其の
武の事より其の事にして其の
上より其の事より其の事にして其の
己し

火事

急軍 火事

急軍 火事の先達を以て其の事にして其の

意王より系は成化王に就りて城河振る制
易くは領口難割は領分中城下を不より就る急
中城下は七押参社に城河原の通年法王に百姓啓動
有るは領分は領分難割は領分振るは啓動は
おとす人気がは通りては領分振るは啓動は
難計其上の隣國に大名元領は其國新
領分は領分難割は領分啓動は領分振るは啓動は
西人数るは領分振るは啓動は領分振るは啓動は
中城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
中城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
中城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は

城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
啓動は領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
名領百姓啓動は領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
中城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
中城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
中城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
中城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は
中城下の領分中城下の領分啓動は領分振るは啓動は

此用心も不取付後述も或は此分、内山誠文等
形々意存深し海軍を得る良玉、軍船若くは
難計又登城たも上りて中の是又此箇下の道法
とくは得る其有る海軍、類中自徳は此箇下
若くは此の振動、急成事、此度は海軍當時に
此子就るを右、言ふ合不中の急意、常と能定
、並不中、此の不取付、此の急成事、中、東都
此門を介し火事、此子就るも格別、此箇下の小
此譜代大名元、用具長持を、内非常、此箇下
お守り、此の急成事、此箇下の火事、此子就る、急成事、

不取付、此の急成事、

○ 此箇下は是の火事、此子就るも非常、此心
得るも有る、此の海軍、急成事、此箇下の急成事、
此箇下の急成事、此箇下の火事、一節、お見、此心、
此門、此箇下の急成事、

○ 急成事、お見、此火事、一、方角、此箇下、東西南
北、此箇下の急成事、此箇下の火事、一、方角、此箇下、
皆、此箇下の急成事、此箇下の火事、一、方角、此箇下、
入、此箇下の急成事、此箇下の火事、一、方角、此箇下、
此箇下の急成事、此箇下の火事、一、方角、此箇下、

寺好也

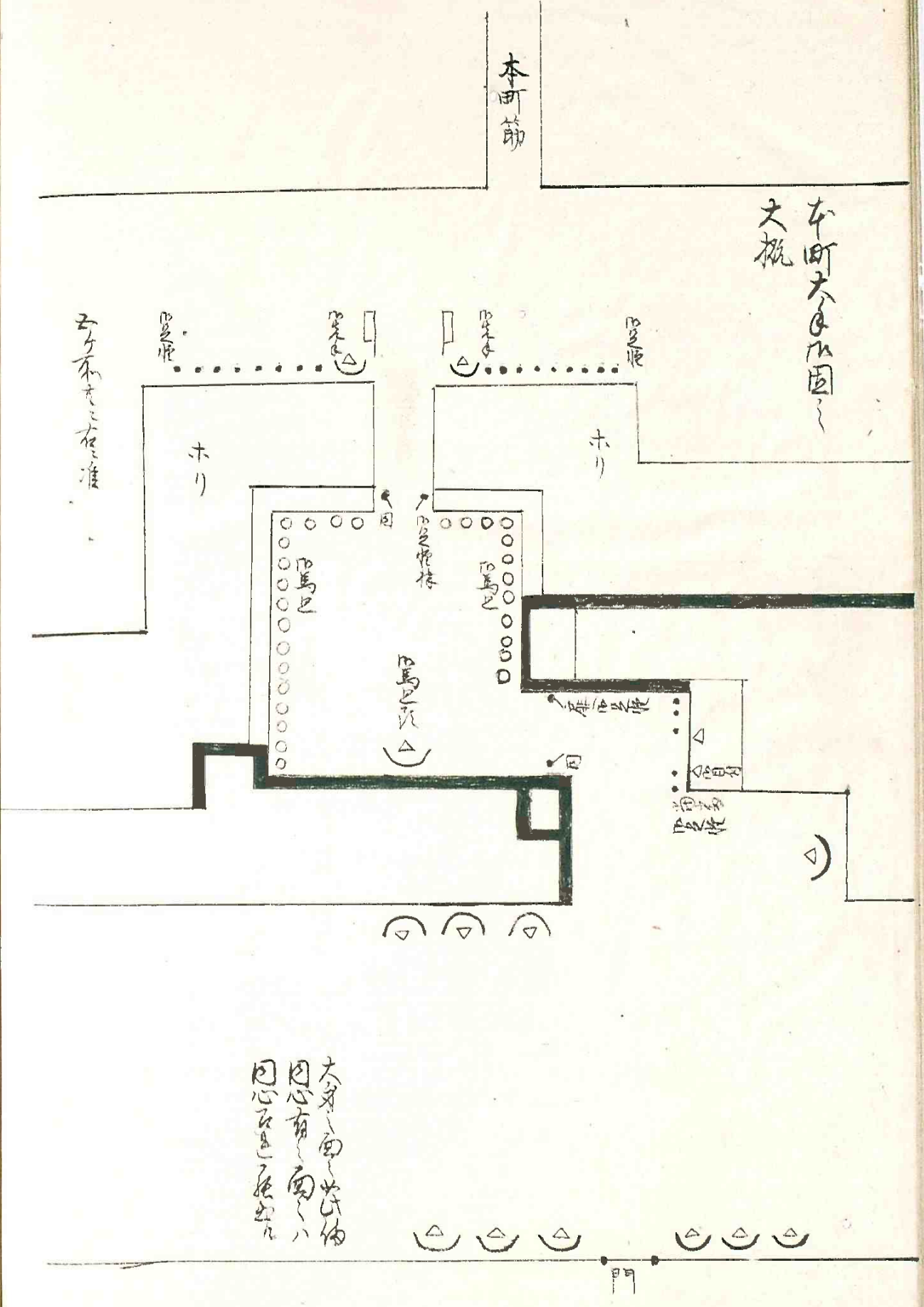
○ 此當此處之主也此大切、
此郭内、寺、を嚴重、此夜奉、寺好也家中
町家、後、何社焼失、此、併、寺、
御城、後、此、此大奉、寺好也

○ 上、御在、此、此郭内、大奉、此、
此、厚、此、此、寺好也

○ 是、此、西、大奉、有、此、西、寺、
此、此、此、大奉、有、此、此、寺、
東、大奉、此、此、西、人数、寺、南、大奉、

西、東、此、此、此、此、
夜、此、此、西、此、此、
此、方、此、郭内、此、此、
二、此、此、此、此、
武、此、此、此、此、
取、此、此、此、此、
此、組、此、此、此、
○ 本町、大、此、大、此、此、
此、町、寺、大、概

本町大馬場
大概



大馬場は此の
同心南のハ
同心北のハ

一 馬場の一歩 組馬場不殊

右の外形正面の床机の爲り馬場を三石に在る後並馬場
馬場は外形の内列を正しくして内列の右に後並馬場を
引く組は外形の内列の右に後並馬場を引く組は外形の内列の右に

一 此先子式組 組馬場不殊

右の外形右橋の南方の約纏帳を三石に在る後並馬場を
一 此先子式組馬場は此の外形の右に後並馬場を引く組は
雁付の南方又橋の左右に出梅を在る

一 大馬場の内列の橋

右の本町大馬場の後並馬場を引く組は此の外形の右に後並馬場を引く組は

馬の足跡を可成り馬の足跡と云ふは在る後之を
馬の足跡と云ふは是れ如く古に云ふ或る事あり
不致正しゆは非常之考石は中も混雜不の致意慎
句事考の根也

○ 此の足跡の... 昔に在る怪友者致意の... 武常あり道具と改を此の... 帳面記述其建不致不出之... 此段人... 此段人... 不致改を此の... 此段考の... 此段考の...

此段考の... 此段考の...

○ 此段考の... 此段考の... 此段考の...

此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の...

○ 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の... 此段考の...

成事は城門に守りし中城代元正門前を或二十人
新中島其布と云敬重と云也

○ 元正申方用人方以高計中城門を修め元正
比郭内之也也云云云云云云云云云云云云云云
面へ小遣遣 仰種事と云云云云云云云云云云

○ 火事場ハ元正幸ハ元町幸ハ元正善徳幸ハ元正自
云云云其外ハ元正人ハ容易ハ比郭内之也難
比門表向云云 殿中述も敬重と云云云云云云
右へ色人救死比定有云云云云云云云云云云
系り飛火と焚付もも重比及人方云云云云云云

防の根に長島と云云云 思云云云云云云云云云
不々々 焚付の根と云云云 思云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

○ 如部寺の表敬重と云云云 於此比郭内に入中城
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

○ 治世有云云事と云云云 衆云云云云云云云云
去大或百人二百人懸入致味云云と致打擲ありハ
歩致の根と云云云云云云云云云云云云云云云
前件と云云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

隣に百姓騒動活潑に及べば郭門に押入の根柢
の附重に人言の差違ひあはざるに接するに比去長下
は是將軍の又の心腹の自に小室の火を為然の以て是の世
の心志に人救の能くは郭門に心室郭門に出来は是也
和流に軍書隠の糧網とやあるに世に時急は是也
早く人を叫集る事なきに致方なきに心得言に
郭門に勿論中城下は是也出来り安にけり配り
出来ははるに乱れを宜き事は右に也の志未だは有る事
此の世に人救の能くは先是速に安に遠に能く
急方いづる見して是の世に是の世に情弱の安に事
其飛ぶ

自然に武術に心持出来ては是も百石元は馬にも有るに
十二石の馬にも有るに是も右に根柢事、事とせざるも
小室も其分限他人と云はば不中なるに身是事と云ふに
不中なるに是も元は合意も事の中なる安の因に馬ともは
るに有る馬も、業又まふに士論するに為小室、有る事
をうを為持するに、不中なるに初も身も次は、是とも
お務に石抱の根柢とて是也、是も武術、根柢出来は
下札
○此は、世に是も定るとは、是も若輩は、押来るに武具、若輩は、後
後、是も、是も是也、是も是也、是も是也、是も是也、是も是也、
是も是也、是も是也、是も是也、是も是也、是も是也、
是も是也、是も是也、是も是也、是も是也、是も是也、

○ 近年の西の風は春別り迄くお成り候へ共、
風はくぬ如く近年は右様、
風節を考へて候へり、
近年は松子も中へ上り候へり、
火除を仕度申候へり、
新川の林若葉を焚き、
警備町東側へ家取をせり、
川へ流す候へり、
救へ候へり、
去年其火は何方より候へり、

吹付候へり、お遣方へ右様、
防に申候へり、
山城代同心、
此の其時、
何種に候へり、
大名元、
此の御案内、
妻妾後合、
此の人を、
左に七、

山不控也。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の
 正の道く。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の
 正の道く。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の
 正の道く。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の
 正の道く。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の
 正の道く。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の

山城の事

東部は勿論。後其の。城す。先は奥擁守。其大樞
 之。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の
 正の道く。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の
 正の道く。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の
 正の道く。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の
 正の道く。事は山座の治に東部を治す。治定のしくく山城の

丁未年春の北の山登成或は六月の北の山登成
増巻の如く方役人の好く小引の如く小引の如く
之の如く小引の如く小引の如く小引の如く
何れ増巻の如く小引の如く小引の如く
此書も増巻の如く小引の如く小引の如く
人小引の如く小引の如く小引の如く
中引の如く小引の如く小引の如く
二巻の如く小引の如く小引の如く
小引の如く小引の如く小引の如く
何れ小引の如く小引の如く小引の如く

此書も増巻の如く小引の如く小引の如く
中引の如く小引の如く小引の如く
小引の如く小引の如く小引の如く
何れ小引の如く小引の如く小引の如く
此書も増巻の如く小引の如く小引の如く
中引の如く小引の如く小引の如く
小引の如く小引の如く小引の如く
何れ小引の如く小引の如く小引の如く
此書も増巻の如く小引の如く小引の如く
中引の如く小引の如く小引の如く
小引の如く小引の如く小引の如く
何れ小引の如く小引の如く小引の如く

おんく年と流るる何れも世常用米也其後新神
の軍用のこと多岐なる年一物に飢饉日多し其
中多岐なる故米之源の事多岐に由れり思ふ所
相承りしに於ては故より此事も又多岐なる事
と 神祖の神代に於ては其の事多岐に由れり
神國也と申すも古の或る者も又天下の物は或る
為るも今も天の自然の事多岐なる事也其後新
の事多岐なる事也其後新の事多岐なる事也
其内、有るも何れも智者有るも多岐なる事也其後新
自ら非り申すも其の事多岐なる事也其後新

身は政治の事時及人共其の事多岐なる事也
其後新の事多岐なる事也其後新の事多岐なる事也
其内、有るも何れも智者有るも多岐なる事也其後新
自ら非り申すも其の事多岐なる事也其後新
其内、有るも何れも智者有るも多岐なる事也其後新
自ら非り申すも其の事多岐なる事也其後新
其内、有るも何れも智者有るも多岐なる事也其後新
自ら非り申すも其の事多岐なる事也其後新
其内、有るも何れも智者有るも多岐なる事也其後新
自ら非り申すも其の事多岐なる事也其後新

ら賭的... 自然... 宣凡... 馬場... 幕... 一列... 目的... 射... 是... 行...

山城守の方式... 山城守

是戦... 居... 我... 險... 石... あり... 集...

るはとせもあつて城は百人といふといふ所も跡を見れば
の法に人のあつた跡を見れば城の跡を見れば城の跡を見れば
の法に人のあつた跡を見れば城の跡を見れば城の跡を見れば
古書に城制の事いふ所もあつた所もあつた所もあつた
○ 西の方の山は水が流れて山の下に落ちるよるよる
思ふ所も水が流れて山の下に落ちるよるよるよるよる
城と對する方にも水が流れて山の下に落ちるよるよるよる
○ 山城の根元は大水溜りありありありありありありあり
やまのあつた所も山根の跡を見れば城の跡を見れば

水の手思ふ所も水が流れて山の下に落ちるよるよるよるよる
井水もあつた所も水が流れて山の下に落ちるよるよるよるよる
山根の水もあつた所も水が流れて山の下に落ちるよるよるよるよる
その外に郭の山も水溜りありありありありありありありありあり
入る流も細く流れて山の下に落ちるよるよるよるよるよるよる
降りの時も水溜りありありありありありありありありありあり
城よりあつた所も水が流れて山の下に落ちるよるよるよるよる
尤大水深の所も水が流れて山の下に落ちるよるよるよるよる
所も水深の所も水が流れて山の下に落ちるよるよるよるよるよる
右も水深の所も水が流れて山の下に落ちるよるよるよるよるよる

尤治城の所得の度は古くは江戸の如くは度山本に
 大幸窓水落紅葉の来多しと云は僅か六つ程に
 多し事と云ふ事賊に有るに在り切高
 所得一尺の内は六寸の水干落す事と云は
 所本城より江戸内之井戸ありては必ず
 江戸の如くは事と云は江戸の如くは
 大く右に江戸水と見たりと云は江戸の如くは
 不容易の事と云は江戸の如くは
 秋夜も存の合帳より江戸の如くは
 ○ 中下江戸外大幸窓水落紅葉の来多しと云は

右分中下江戸外は不陸園の山は江戸の如くは
 城の門際より江戸の如くは
 射向より江戸の如くは
 右分中下江戸外は不陸園の山は江戸の如くは
 門外は廣場狭小の如くは
 馬出内は江戸の如くは
 江戸の如くは
 其の如くは
 大幸窓水落紅葉の来多しと云は
 江戸の如くは

押(一)得先は小口より、働儀難出の山より城を
却る欲ま城におかひの難儀を御おかの女御事と
俗に送る安害とも申の款と追拂に可成る小口は陸
の多小口し明々れ急な其小口有る事世間前
死物お成の只今分る事迄の海に世に害な
かと奉存の付申上

○中敵の御事と申すに桂中の昔より申事と
源りのは所は山城と申候事或大腰能事申
畢竟山くくしし可紀りくくは険固持立事
いひ石相成石崎険固持立事いひ大分個人能り

人夫能りいひ申事いひの徳し可しは取有る事いひ
いひ申事関の城制と羊馬味と畧しいひもの
事存の實は堀川と懸城といひは二重城といひ
は陸の山といひは道中候武いひは向紀と候
利害有るいひお身は始る事大率畧事洲を押
出いひ取有る申候事上古人の骨と折取申
事いひ不存候事道中候武
知多人馬の山登といひは准と切欠事
河戸より上石瓦筋の頼は公長に准といひ(上五
いひは始まる事お成事いひは事

右の事も法に依りて公に推し極むべき事
の事、不宜に尤も愛愛成りて、
得るも甚敷と存し、他所若し事と見し、
筋の得る人、
は利益を武備に用ひ、
類次第、
想河戸の上の上の事、
不宜に極むべき事、
想河戸の上の上の事、
類次第、
想河戸の上の上の事、
不宜に極むべき事、

○ 町西側計、
通、
近、
存、
款、
○ 四門、
有、
お、
は、

石を成りぬ土を根計をきりぬてし継ぎ
りしを存し是の前者より出る者不守り
之の不出し法有りはつる若くは
肉を守りて成り得るを根裏に
働はぬの若くは形馬出内と
古根株と急度守りて形
古根上より石中の法を定りて
添り土より石を成りぬてし
有るは形馬出内と形馬出内
より存する先より法を定りて

重なる石を成りぬてし
凡そ若くは石不若くは石
正使し通りの石を成りぬてし
見若くは石不若くは石
其し然りとて形馬出内と
沙の石馬出内と方
有るは形馬出内と
○ 津城内外部は古根株を
不守りてしは石を成りぬてし
こころの枝と據りてし

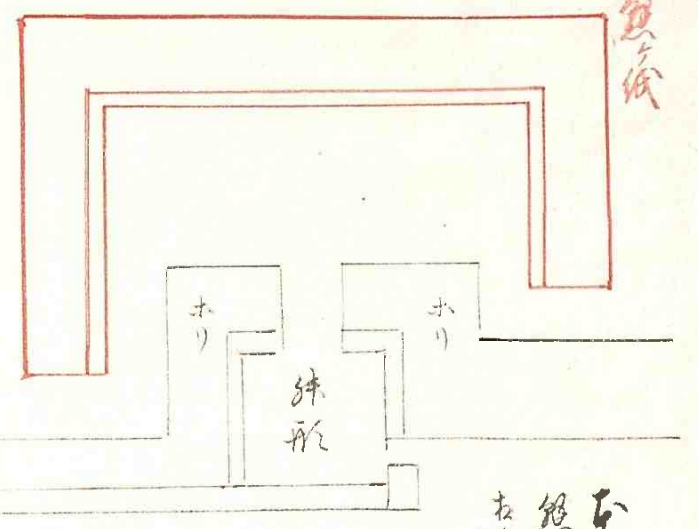
下城より好む想ひは南地に樹木、能く深き草葉
 田も志らざるに中、山形、河内内なり。ハ樹木切らず
 山形、河内、好むも存前、山形、河内、樹木を以て
 多き部、河内、不険固、山形、河内、城、切らず、ハ、
 本城より、外部、一日、山形、河内、切らず、ハ、
 牛、虎、天守、櫓、を、遠、候、ハ、山形、河内、樹木、多、く、得、
 夫、山形、河内、外部、切らず、ハ、山形、河内、物、候、
 極、山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、三、版、ハ、山形、河内、
 年、山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、

中ハ、山形、河内、松、山形、河内、極、山形、河内、切らず、ハ、
 山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、
 南、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、
 山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、
 城、内、山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、
 山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、

○

和、山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、
 山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、
 山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、
 山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、
 山形、河内、切らず、ハ、山形、河内、初、ハ、山形、河内、

此の如くは日本に成るは古人の馬鹿なり
 此の如くは徳意の外に事の上は成るは古人の馬鹿なり
 此の如くは計の上なり



無之候

此の如くは徳意の外に事の上は成るは古人の馬鹿なり
 此の如くは計の上なり

本町大子町に於ては井形は要成り
 徳意の外に事の上は成るは古人の馬鹿なり
 此の如くは計の上なり

新部内

此の如くは徳意の外に事の上は成るは古人の馬鹿なり
 此の如くは計の上なり

武備に及有るは此の如くは徳意の外に事の上は成るは古人の馬鹿なり
 武事廢するは古人の馬鹿なり

是より以後武備は怠るは古人の馬鹿なり
 此の如くは徳意の外に事の上は成るは古人の馬鹿なり
 武事廢するは古人の馬鹿なり
 其の如くは徳意の外に事の上は成るは古人の馬鹿なり
 宗近政宗の如くは古人の馬鹿なり
 肝心の如くは徳意の外に事の上は成るは古人の馬鹿なり
 切子切りの如くは徳意の外に事の上は成るは古人の馬鹿なり
 歴々の如くは徳意の外に事の上は成るは古人の馬鹿なり

何れも其の集。勢。急。度。は。用。て。其。意。は。一
つ。に。し。て。武。備。絶。不。し。し。は。可。し。と。言。は。れ。る。
其。の。用。を。不。し。し。は。可。し。と。言。は。れ。る。一。端。能。く。其。意。を
其。利。を。以。て。及。人。方。も。尤。と。思。ふ。可。し。は。及。人。方
之。能。く。其。人。數。に。指。麾。を。及。ぶ。可。し。其。意。を。可
く。其。意。を。其。年。に。立。て。其。意。を。其。年。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を

己の得る昔の事。世の偶合。不し。し。は。可。し。と。言。は。れ。る。
其。の。用。を。不。し。し。は。可。し。と。言。は。れ。る。一。端。能。く。其。意。を
其。利。を。以。て。及。人。方。も。尤。と。思。ふ。可。し。は。及。人。方
之。能。く。其。人。數。に。指。麾。を。及。ぶ。可。し。其。意。を。可
く。其。意。を。其。年。に。立。て。其。意。を。其。年。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を
其。世。の。時。に。立。て。其。意。を。其。世。の。時。に。立。て。其。意。を

夫ハ聖賢ノ人ニシテ魯公ニ盟書ニ勅ヲ謹ク

業別の人教と由成りての聖人何事か
又のむけ今世之儒者之文章のれも武候の
又武候の然る所の只持とるに事と武候の
の由るなり物相之極る事と武候との由
類形之文章の之も或又少学文を仕る者も
物知り能る七書孫子漢書一の世に在り
よく事あるを孫子漢書一の世に在り尤
之極の由る修養の之も孫子を尋ぬる由る
前より上の分孫子等の畢竟知識之極極る
之極成事なる由る得る事と核成之仕合と致仕

之の由る孫子之極意と見ゆる武候史程の
出来一仕の事と事可孫子と一若者古人の致意
注解と聞ての事と事と極の由る利はら
お海の極るれ其の若者古人の極思ひ入る
孫子壘を言く一海と源と成り又城と攻る
所有と有るの事と高く一極と深く致る
元和迄の城制是れ仕方地利を推極る分限
攻の防守の得愛仕の別有る重くキリ一学
神の由る人何一欠有るの事と孫子の極致

要領の得たる大分物類ありては是等人の為りては
早稲の計の得たる穀物より可なりたるは故に
物類の得たる由一若し而しては公卿の由りては
三年の計の得たる夫を若し而しては不致五年の計
の得たるは作付者一年の計に尚物類の計
一は是等の由りては有用なきは是等の由りては
不中し夫れ存しては及重し及人出まらざれば得る
或は事なりて後し又の事不致わらざるの事なりて
乃教道は得たる急成は利もあらず下り明倫堂の
孝弟忠信を教はば勅の非常に徳成はば人を

教兵賦之徳は兵糧委積万幸との得たるはやうに
急要ありては是の由りては人数多しは是の由りては
固りは國の固りは城の固りは城の固りは城の固り
一は是等の由りては是の由りては是の由りては
一は是等の由りては是の由りては是の由りては
文も武も國を守る根本は是の由りては是の由りては
文も武も國を守る根本は是の由りては是の由りては
定めざるは有るは是の由りては是の由りては
後を得るは是の由りては是の由りては是の由りては
自う急りて生しは是の由りては是の由りては是の由りては

と用意仕込はし得は尤も存心武備と云ふ所例
同く改めは後前と申す中か高河も子孫の出来
出得る何事と云ふ事候は得るは河後候に依り
長姫候は前候も出通にお成り候は申す可く
只今も急可務並いと又右申す可く此後之を
との遠い竹輝と遠いは左様は候は候は
此の段に之を思ふ事候は申す可く此の段に
有る事候は計り申す可く何れも申す可く
常やと云は候は申す可く此の段に
此の段に申す可く此の段に申す可く

修角候は申す可く此の段に申す可く
保元之亂の十日の内、此の段に申す可く
此の段に申す可く此の段に申す可く
承り申す可く此の段に申す可く
此の段に申す可く此の段に申す可く
申す可く此の段に申す可く
此の段に申す可く此の段に申す可く
此の段に申す可く此の段に申す可く
此の段に申す可く此の段に申す可く
此の段に申す可く此の段に申す可く

兵ハ皆稽愛ノ利ニ在リ得志ノ内ニ程更事多ク
湘ハ心正陳を介スル一ノ勅ヲ存存ハ其
是中ノ後ハ宜シク笑テ其ノ得志兼ハ一ノ
傾名より外積不中ノ意喜テ私書書キ不
以事ノ中ノ事ヲ程更事不取成以事不人
傾方より南河ノ意有之戻在程更事不
以私ニ私ノ氣性も能ク存存其ノ与是愛程更
中ニ其ノ意ニ其程より成積程更事不其成以成
として以國ノ不入之程更事不其成以得志
私として余數者之の事ハ一ノ程更事不其成

お令辭以當此以應之方軍字とハ雖も謀計
事年ハ存存以軍師ノ事ヲ知テ不其成
存存ハ一掃ハ府以事ノ道以成以文字計
其ノ中ノ事ハ其面ニ其法と存存外ハ其成
氣ノ事仕以着兼兼氏ノ君性と存存武と廢
其氣と減之其事有危氏ノ君衆と程更事
好者社稷と先ハ以事ノ以府以得志其
行つて其令中ノ事ハ其武藝ハ成以
以府以文小對以事ノ武ハ其成以成以考
其遊以應之其成以成以武藝ハ其成以考

人数に指麾するに似たり。此等宜乎好尚の時鳥
也。此列の軍字句に不致するに似たり。友人教
分合の古人も甚く。友事。中より分く不分と
靡軍。と云。製く不製と孤旅。とい。中。今
若し。此と勤。此中。人多く。士と。此。分。要
と。事。正。之。也。此。祥。兼。中。此。主。除。事。と。此。此。

旌旗之事

此旗を以て懸旗を以て此持槍を以て長柄を以て纏
を以て此馬平を以て懸何也。と。名。同。一。極。也。

其意味大なる。遠く。此。旗。を。以。て。中。一。
冲。當。家。と。名。ハ。

神祖より進出。此。旗。を。以。て。中。一。武。伎。者
と。有。之。也。為。時。此。旗。を。以。て。中。一。大。方。懸。旗。を。以。て
と。名。見。之。也。懸。旗。ハ。傳。教。何。程。此。府。也。と。皆。一。對。之。
旗。ハ。仕。捨。町。捨。不。町。前。後。左。右。に。置。け。て。傳。也。と。皆
味。方。と。お。分。り。也。旗。ハ。此。府。の。一。傳。也。中。一。平。也。と。亦
宜。也。以。年。以。ハ。為。指。撰。と。亦。有。之。也。と。亦。海。中。一。
此。持。槍。を。以。て。是。ハ。冲。當。家。と。名。中。一。此。ハ。柄。袋。と。名。
此。槍。と。是。又。名。也。武。伎。者。と。有。之。也。此。長。柄。を。以。て。

中者一倭口拾中種^ク古^ク前倭口長柄^ヲ長柄^ノ者^ト得^ル士^ト
 以^テ是^ハ六^ノ三^ノも^テ云^フも^宜し^ク得^ル長柄^ノ者^ト得^ル士^ト
 輪^ノ助^も水^ノ取^ル所^ノ長柄^ノ者^ト得^ル士^ト
 長柄^ノ者^ト得^ル士^ト者^ト一倭^ト武人^ト人^ト
 長柄^ノ者^ト得^ル士^ト者^ト一倭^ト武人^ト人^ト
 一組^ト武人^ト人^ト者^ト其^ノ名^ト附^ル者^ト何^ノ事^ト也^ト
 時^ハ中^ノ間^ト方^ニ割^テ渡^ル方^ニ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト馬^ト
 在^ル所^ノ類^ハ口^ノ性^ト類^ト者^ト種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト是^ハ時^ト
 除^テ也^ト得^ル所^ノ者^ト口^ノ海^ノ口^ノ前^ト也^ト進^ル中^ノ口^ノ種^ト
 中^ノ側^ト同^ト口^ノ武^ノ者^ト在^ル所^ノ兼^テ口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト

此^ノ人^トと^テ口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト
 一^ト之^ト奇^ノ者^ト也^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト
 長^テ口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト
 兼^テ口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト
 武^ノ口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト
 形^ト文^ト人^トノ^ノ宗^ト教^ト也^ト有^ル口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト
 或^ハ口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト
 長^テ口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト
 口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト
 口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト
 口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト口^ノ種^ト

倭能くまうて甲山ぬけ之を以て組織能く是の者
拾人種く欲ふ之拾人種回心之計重なる者大才
物見むひれ前中より成味方内命息不承の
倭は檢使に未ひ其の三拾人石抄に是若味方討有
ゆりも吾難門取の心持といふ一之を以て回心能
分て親とといふも其の神々同心の心持を自由
に是の程中計重け之人は人將に後心は中
いづく大才とい人腹と命を万事とほくそ
中より謀と潜よ一平を懸く愛と情
人命と命く保らるとはより安危と考未落と

思慮一々賞罰と明かよ一々能くよりて之を
と授け人々長き事と取用して説教と中計
疑案と変形一善悪と定く和極く大將より
旗本と伺ひあつて事なる事なる事なる事
政一旗本内能く一々懸く一いつい一いつ
号令の形迹中の軍事小むて再考するもの陰斗
和は世多事と事源の畢竟若力と能人其原
以府の將威の形跡所の賞罰とあつて山将も
和極より若力と見えも一いついお城山の賞罰と
仍是不中一人と教く一三軍動一人と賞

一之若人悦者也... 不致罰... 中... 一和... 將... 中... 申...

一之若人悦者也... 不致罰... 中... 一和... 將... 中... 申...

飲く間と防の和流く軍書寡戦老少将
旗本といふより我武者なり
備と陽之を以て府のたの侍に武者なり
侍人將給を以て大將有るを名と武者
なりと唱ふるも有るは旗本の持統なり
同様の治世を武者なりと申すは平三郎
中剛同心の武徳に及ぶを存けしなり
了ぬるもはくは治世の時なり
叔中城に足付と申すは旗本急度旗
本なり
足付は持統なり
足付は治世なり

て存るは元氣なり
はの家の中武徳と心然なるは福なり
武道急不中なり
神意も亦計の根なり
ゆのハ聖人之道も取らば
是より治世の事なり
け以後改むるは
ゆの更なり
向くハ自分なり
陪長より

中前今一冊、武備と目出し及人々、年中並に味、
お成のく、兵、妻、討、子、男、九、平、の、歌、り、給、通、者、能、と、り
軍、の、元、と、開、し、し、り、の、卷、と、戦、し、む、の、か、く、形、在、是、と
以、府、の、或、の、國、亂、と、て、重、化、分、合、の、事、を、神、平、指、物、合、平
と、類、な、と、て、融、分、合、事、成、中、の、給、給、給、と、て、國、亂、と、
法、亂、と、ど、譯、し、紙、と、し、て、形、圓、し、と、て、不、散、融、分、合、後、
の、の、ハ、旗、幟、給、り、形、ハ、音、の、畢、竟、と、し、矣、り
と、考、る、の、先、の、家、中、の、旗、指、物、と、能、く、給、通、は、味、無、事、
及、人、有、給、を、給、列、る、人、の、對、指、物、是、中、神、平、と、り、
と、中、側、通、く、是、其、面、く、る、是、の、歌、り、給、通、者、入

の、の、以、得、稱、文、は、お、中、の、給、通、者、
一、車、り、の、口、は、多、く、成、り、る、ハ、中、の、給、通、者、
火、車、の、給、通、者、ハ、入、交、り、の、得、通、者、
以、の、神、子、車、給、通、者、ハ、先、の、給、通、者、
神、旗、と、り、の、車、は、交、り、是、と、給、通、者、
取、り、る、者、賞、し、と、り、歌、り、来、り、車、の、給、通、者、
以、一、車、と、味、方、車、と、り、割、合、の、の、是、何、の、給、通、者、
一、車、と、味、方、車、と、り、割、合、の、の、是、何、の、給、通、者、
主、車、と、り、の、給、通、者、ハ、主、車、と、り、の、給、通、者、
主、車、と、り、の、給、通、者、ハ、主、車、と、り、の、給、通、者、

或る人の不致ゆゑに不致ゆゑに人を凡そ見る事
 其愛の如く海に酔ふる目覚めは旗中偏ゆゑ先偏凡そ
 等しく愛ふ事も若くは成不中ゆゑ旗中偏ゆゑ不剛と愛
 出来仕ゆ得ぬ或る人の誠心は病ゆゑは益も不致ゆ
 是も今以て義元と海に全戦伝言し川中偏ゆゑ人愛も
 旗中偏ゆゑ實情ゆゑにその人の偏ゆゑ初めは偏ゆ
 能はゆゑに少能者合意もその人の業也り不中ゆゑに
 私しと當年と口拾年余和流彼等ゆゑ軍学仕ゆゑに
 近頃の人の懼れ愛ゆゑに思ふにその人の計ゆゑに成す
 格別ゆゑに取ゆゑにその人の愛ゆゑに和流旗中偏ゆゑに

と年上ゆゑにその人の後ゆゑに旗中ゆゑに終つて凡そ
 番はゆゑに有度ゆゑに好ゆゑに是とせざる非はゆゑに為組ゆゑに
 かなぬゆゑにその人の海は是とせざる大坂ゆゑに後ゆゑに何ゆゑに
 大さる粗ゆゑに愛ゆゑに尚財ゆゑに是とせざる武偏と組ゆゑに
 行心ゆゑに素雅ゆゑに和ゆゑに旗中偏ゆゑに扇子要ゆゑにその人の旅ゆゑに
 只見ゆゑに計ゆゑに用ゆゑに之する愛ゆゑに好ゆゑに文原是とせざるゆゑに
 是も不致ゆゑに新ゆゑに組ゆゑに彼ゆゑにその人の徳無ゆゑに
 其人同心拾縁ゆゑに三人合ゆゑに拾人徳も同心ゆゑに何成者と
 其も抱ゆゑに成ゆゑにたれは凡そ大概ゆゑに好ゆゑに

○ 早唐風雨は何時日と推矣と考て天心云純利と初と

- 軍勝負と計城取陣元極立能利あり士
- 大軍より軍山に回リ川流成ハ馬並を考て地
利と矢あり士
- 兵糧と換飲食薪大塊者之かゝる極い士
- 遺しと指ひてと補ひ者對し編成治終して
患と消し結と解あり士
- 尻小揚止る力量ありとありと近き能いし
敵大川と海あり士
- 大刀銃長刀弓鉄炮馬と進者外何事得道具
と衣類と撰討あり士

- 籌勸とあり致し陣營城邑四方極兵糧を
出入と知あり士
- 西に強敵能書或者人面と能書あり士
- 武器馬と利分と能考能人の中傳あり士
- 百葉令廢者万病と癒あり士
- 恒是しと一日と能能人揚あり士
- 貝と能吹あり士
- 布と大概為る能軍用あり士
- 奇謀と事とあり人知能ありと能
ありと回者あり士

之事と不致はる不致の間者能一事と知す
あつたは味方と入並不中は前お徳重の要と
清一人命と保つてしる難くはなす

○ 相和流の軍書も或者年々令敵旌旗の書物末と
司の山所成旌旗本領の書物末の方事旗中より
たすをいひ申書お違はたはた人教の或るは
半事はたた事一役前は所は是又探探は法徳想の事
はる不致はる令敵の書物末の書物末の書物末
用之中山海有急の事万令不中は貝は所は貝は吹
書不中は用は書不中は飛別は城の中一重徳

川流寒中貝と吹系二里先一役前と之を休是事又
城り吹流の何人も吹書は中の中馬地は何役者貝と
吹書は吹流はと大概歩は信好者一役前
第一は令敵は是も何人教種は能事は海教是と
正備教は吹書貝と吹書者何人定は能事は政度事
各各流地は一歩武能は能事は書は所は何事と
其書は流地は正前所は山伏と中何んと申事と山伏
と此も是も或は礼世は能事は長種事は能事は
能事は平人吹流は能事は能事は能事は能事は急
此用は書は平人吹流は能事は能事は能事は能事は

久根と幸八余り 公義と輝とせよ武成と名前
等も平之志不中出権 武成と名前と願くは海と云ふ
急度後益面お魂ゆる其組分と決定の武能能年出程
沖側と進く倭もお成りつ勵も意別と成一市半免
共武成と幸八と得と成名も武成と云ふと別おり
直交花も解り又十人出統も其物おし是も皆一對
お成り一番より四番と成く其物番付を以てし
或は一組浪おとと云ふれとお成りお成急度目
平く云ふ山程お成りつ其要の時
よく沖目通り進く程お成りも能お成り用も云ふ中

進次大守 長 沖側と進く 敵と挑灯と一對
お成りのお程お成りつ存年と一揃と成り
お成りつ存年と一揃と成り

高野山 徳と進く 海と云ふ 百姓と成り 一巻
一冊と成り 兼名と成り 蛤と成り 一冊と成り 二冊と成り 汗と成り
是の程者自然と成り 山と成り 虎と成り 虎と成り
徳と進く 進く 進く 何と成り 兼中 徳と成り 古と成り 徳と成り
右と成り 徳と成り 兼中 徳と成り 兼中 徳と成り 兼中 徳と成り
徳と成り 徳と成り 徳と成り 徳と成り 徳と成り 徳と成り

系形河武伎聞書

公義河老中方若年方八外上郡正不中在
山得武伎八持不心然有八右邊將監度度
久持道具之所亦有八表衣園中八居る次有
有八何のそ急成時八何とて口より也
城にも持地連有る食住伎有る八不武具も
亡の形或八館林も方急度成の八先年月思人
飯り出火八右邊不火類焼枯後八南口橋と
河橋夫八惣又八普徳も山八口急る八口橋出火或
右邊將監度度形八右八尻皆下座衣中座衣也

角と八不八八善所内意も城八惣て八徳代
系八居有る八大名或八及八口郡内居居友八
非常八口使八居有る八如八何八先八
住年居居友八引城八中八方八種八度八
戸田来女八度八安友對馬と度八格八八右八尻八
八八八八八二十日御用八八右八尻八方八
引城八中八口郡内八居八八八八日光
所住八右八邊八清用八八八八八八八八八
戸田家八右八邊八八八八八八八八八八八
惣八八八八八八八八八八八八八八八八八

以世々今市田園之の公享保十二年の以て之免
一由奉以前小令承以存將有之
伊社各八勿偏以海資以麻將 伊社各長諸大右
或依之亡口心元付之 伊社各長今市以奉
井之河内ももい交 伊社各長河内ももい交
今市ハ奥州筋湖ハ海私式五六万石分限
口園ハ不承以場前も存重有之 伊社各長拾万石等
大右ハ伊社各長存之旨中上之也極有之
思古の旨是迄後も度之計奉 上意有之右也
伊社各長伊社各長元付之 伊社各長伊社各長

者も能く中付人救之も分之二下取番有之万一
夫爰有之何れ心得或具馬具不及也夫根葉
中七七元自身也余味以極之旨也難行也其
口心場七有之大奉 伊社各長維之也其口心
向之由之奉一統也 伊社各長伊社各長
伊社各長伊社各長元付之旨也

公義通之 伊社各長伊社各長元付之旨也
右別之也或志度月及旨 伊社各長伊社各長
伊社各長伊社各長元付之旨也 者謙任流軍等指南往
伊社各長伊社各長元付之旨也 遠地伊社各長伊社各長

取所方も難儀筋もあやき延くも者も有る所
天の令儀は治す物に在りて右云くは夜は星輝
有るに依りて高野の令儀と云ふは是れは法に
依りて是れは法に依りて是れは法に依りて
公義の思ふ次第に依りて是れは法に依りて
不及日本國中に在りて天の令儀は治す物
に依りて是れは法に依りて是れは法に依りて
只治する者としては是れは法に依りて

大君も其國の事をも令儀を較とて治す
不中の依りて是れは法に依りて是れは法に依りて
河原元有るに令儀をては軍用も是れは法に依りて
蓮花の法に依りて是れは法に依りて是れは法に依りて
幸内なる者も是れは法に依りて是れは法に依りて
治す者も是れは法に依りて是れは法に依りて
中にも是れは法に依りて是れは法に依りて
公義の法に依りて是れは法に依りて是れは法に依りて
おかしき法に依りて是れは法に依りて是れは法に依りて
も存る大坂に陣治る所も是れは法に依りて

此の所存は心傳のり遠く有るは其の仕合人様
 は之のく実用いふし有るが爲に忠告の場建も或候と
 以調り直り思ふもいづく御事にも以却考し取り高時
 公義の所軍役の定まるは此の御心傳に
 大猷院御中代も肥前守御系一揆後委度は
 作出の吏と依大右といひて取定りし事も今
 勿偏小方もも人故多く持し事と申し心傳に
 以存の中山安房も氏長も 以存の以存の軍役
 為不及申し以存代前知れり御心傳に大猷の軍役
 は作出の吏より以前大坂討ちも委度事も今以存

程く委奉 以存の心傳に以奉し是は高辻の或候と
 以存の公義も大坂後二拾年とすは公傳に
 以存の所軍役の所定も以存の御心傳に大坂後
 公義の或候も甚あ御心傳に以存の御心傳に
 以存の以存の是又申すと安房といひ一筋身
 以存の以存の御心傳に以存の御心傳に以存
 以存の以存の御心傳に以存の御心傳に以存
 以存の以存の御心傳に以存の御心傳に以存
 以存の以存の御心傳に以存の御心傳に以存
 以存の以存の御心傳に以存の御心傳に以存
 以存の以存の御心傳に以存の御心傳に以存

計るは是れ方々の口渡さ度計
公義は是れ百人同心兵騎の居る所なりは方々の
同心と又公義の興力に居る興力計るは海軍
の得る小東安房等も是れは同心兵騎の居る所なりは
兵騎兵騎同心兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
興力兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
換るは百人長所其長と馬の改め奉る言換は換地と
兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
二隊ははる陸揚と持ははる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
是れ大將の居る所なりは同心兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり

組合吏は二十名程と改め持はる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
七八名程より二万程に或は或は兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
百人程の概に換ははる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
是れは百人程の概に換ははる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
或は或は百人程の概に換ははる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
是れは百人程の概に換ははる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
七書角も少くは換ははる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
是れは百人程の概に換ははる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
是れは百人程の概に換ははる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
是れは百人程の概に換ははる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり
是れは百人程の概に換ははる兵騎の居る所なりは同心兵騎の居る所なり

この世に仕はれず、篇は治世の時より世に能く
直矢愛、或は長きと、此の如く、身は旗幟、おれと
定の欲、味方能く、見ゆ、愛の、身、大將、長、合、何
拾万人、人、救、も、連、行、何、の、も、柳、或、者、と、も、も、
合、被、旗、能、お、果、約、来、何、方、と、も、能、ん、た、い、一、は、能、ん、た、
少、く、は、存、の、能、ん、た、い、一、は、能、ん、た、中、合、名、不、能、ん、た、
其、時、原、用、之、不、中、の、存、前、お、徳、い、何、位、之、存、の、存、
能、ん、た、之、不、中、の、存、一、は、子、と、来、り、の、一、は、難、事、の、も、存、
或、甚、愛、る、と、之、を、怒、不、少、の、得、ん、た、何、と、も、一、は、一、は、竟、
之、と、は、大、事、も、存、の、一、は、筋、も、は、家、或、使、有、の、一、は、家、計、の、

少、く、は、存、下、り、一、は、或、使、何、存、の、一、は、牌、
一、は、上、國、も、之、能、の、得、ん、た、或、使、何、存、の、一、は、存、の、方、も、存、
或、使、何、二、品、何、存、の、一、は、上、士、中、士、下、士、も、存、一、は、存、の、
上、士、一、は、將、軍、と、も、則、軍、字、能、人、と、見、知、も、賞、と、知、て、
能、ん、た、一、は、射、英、爵、と、一、は、活、乱、と、不、息、と、一、は、
無、法、と、一、は、或、城、及、陣、何、使、之、不、能、何、或、使、何、存、の、
能、ん、た、一、は、射、地、能、何、何、と、教、一、は、或、者、分、と、一、は、一、は、能、
一、は、一、は、中、士、射、何、何、何、何、何、何、何、何、何、何、何、何、
能、何、一、は、存、の、一、は、何、地、も、一、は、中、士、下、士、も、一、は、何、愛、も、存、
何、何、一、は、何、何、一、は、何、何、一、は、何、何、一、は、何、何、一、は、何、何、

山海軍費用之不足又同是の勝は向能の如き者
あり武道と忘却して於無事にして軍用を重
しむ上意は中は甚六神知りし所同通は
し著るし中は先も只心易は古はし者し存の如きは
以後の如くも存し海軍備文中に天明丙午三國書
中書出中の書統に於て海軍の事報表もとの中
右内大臣の強き強動を有し其年或は難題より奉と
紀一報表の如く内大臣より後南推しに
或は日本國の高人其夫人對して見客あり
の如く外地理の事人物の編の或は朝鮮の地利

大岡征伐後代に武佐と傳へて今水陸の如く
整て水軍も十四ヶ所有て水軍と名し海陸
の事小の如く有て其の事ありし書も古地理の事と
中の重し志入も存し海軍は頗る海軍も多し列白
加多郡の如く有て海軍の如く大船と名し其も
難計に非常の如く昔は考へ是の西國筋も其の
の星船救千海之の如く是の版長崎の如くありし
虚実の如くありし海軍風土は其の如く二百
及し海軍の如く紀一にも難計の如く報表の如く
遠路の如くありし海軍の如く其の如く大岡

朝鮮陣と云考言其夫必も此の取成者も是は也
維計の朝鮮は地利大抵右に在るは南山三百
里程ありしか故清に服し奥に押入りのチランカイヨリ
難魁境よりいふより海東より方日本より富士山
見し法にも士卒も皆古くといひしものありは是ハ
富士のハ云々報表く大山の中故報表も夫人ト云ハ
まんくく海上樓く有白く雲有くといとヲリヤウト
トハ其方角に必し有くは報表も西南方
右に根く有白雲折角ありは是ハ朝鮮一とありは
トハ中法に攻込は朝鮮より水東より攻込をす

七八百里も奥に日本勢ありといふありは是と云存
以海を報表人清に依成者有くといふ日本中
憂に下りし海報表く日本に唇齒を以海を
朝鮮陣よりも攻易かりといふ者いづしは境なきは
いづくの如きは海に三國を統は統は言ははは書と
著し仙臺者いふ所の報表く一件は難魁境の
出来ははは成兼るは徳少年より矣ハ丙午
年より東移るはは率松前より西の由ありは
は度は強弱ありは後ありは款を後より存
はは報の系といふ日本は海を難魁境

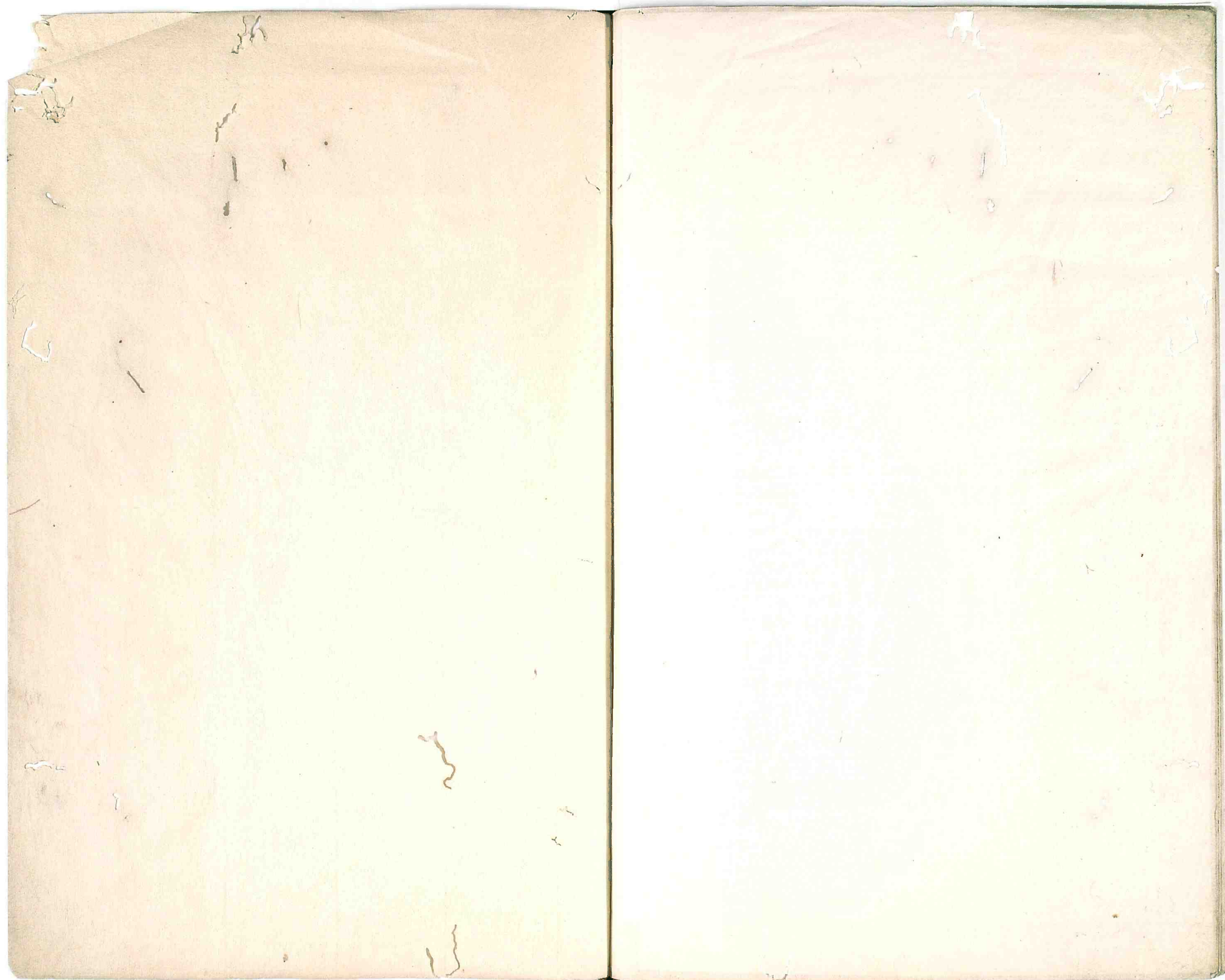
春の行幸に度々報表も出た所成り
雖計の日本國と云はれり

將軍の行幸其由と夫人の馬足のけしき
其事の有りたるも多し

將軍家御若年、
所家と見ふ由は、
中士より、
出立は、
急、

若く西國筋盜賊、
伺ひ候も、
不慮の事、
障りも、
了等、

他國の美事、
成、
地利、
出、





愛知県



1103283174